

機関番号：17401
 研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20520333
 研究課題名(和文) 豊子愷に関する比較文学的研究

研究課題名(英文) A comparative study on Feng Zikai

研究代表者

西槇 偉 (NISHIMAKI ISAMU)

熊本大学・文学部・准教授

研究者番号：50305512

研究成果の概要(和文)：

本研究は豊子愷の文学・思想・日本文学翻訳について、共同研究者がそれぞれ先駆的な業績をあげた。

研究代表者西槇は、豊子愷の小品文にみられる夏目漱石とラフカディオ・ハーンの影響を跡付け、単著をまとめた。研究分担者大野公賀は、豊子愷の思想に焦点をあて、博士論文を提出し、その後公刊した。研究分担者呉衛峰は、豊子愷訳『源氏物語』の成立背景の解明につとめ、論文を執筆した。さらに、豊子愷研究の基礎文献となる「豊子愷旧蔵書索引」を作成、公表した。この作業には西槇、呉のほか研究協力者の林素幸も参加した。

研究成果の概要(英文)：

Each member of the group has reached some pioneering achievements.

Nishimaki, the representative of the research team, for instance, published his second book on Feng. In this book, he shed a new light on the influence of Natsume Sōseki and Lafcadio Hearn on the essay of Feng. Ono Kimika, another member of the team, focusing on Feng's thoughts, wrote a PhD thesis on Feng and later published it as a book. Go Eihou revealed the background of the Chinese translation of *The Tale of Genji* by Feng, and as a result of his research, he published a paper that was highly evaluated.

The index of Feng's library was also compiled and made public by Nishimaki, Go and the collaborator Lin Suhsing. It will be a valuable and foundational contribution to Feng studies.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：比較文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：豊子愷、夏目漱石、李叔同、日中比較文学、近代文学と仏教、小品文、小泉八雲

1. 研究開始当初の背景

近現代中国の知名画家・随筆家豊子愷は、日本で吉川幸次郎によって早くから注目されたにもかかわらず、その研究が進められたのは近年である。楊曉文、西槿偉がそれぞれ1998年、2005年に豊子愷に関する論著を刊行したことにより、知日家豊子愷の研究が始められたといえる。しかし、彼らの著書では、豊子愷の小品文はあまり取り上げられなかった。豊子愷研究が盛んな中国でも、あるいは研究の機運が高まりつつある欧米でも、豊子愷小品文の解説はほとんど行なわれていない。

西槿は豊子愷の絵画や美術評論を美術史・比較文化史の見地から分析してきたが、そこで豊子愷絵画の間テクスト性を検証した。豊子愷は絵画制作に際して、しばしばテーマやモチーフの借用を行い、再創作の手法を駆使したのだ。文学創作においても、彼は同様の方法を用いたのではないか。そのような見通しをたて、西槿は2005年夏から豊子愷と夏目漱石、小泉八雲の小品文の比較検討を始めた。そして、2007年までに論文を数編発表した。

2. 研究の目的

(1) 豊子愷の小品文にみられる夏目漱石と小泉八雲の影響を究明しながら、豊の小品文を読み解き、同時に漱石と八雲の作品を逆照射する。目標に学術図書の刊行を掲げた。

(2) 豊子愷研究にかんする基礎資料を整理し、索引化する。豊の絵画・墨蹟・手稿・旧蔵書の索引を作成する計画であった。

(3) 弘一法師李叔同のかかわりや、馬一浮からの感化も視野に入れ、豊子愷における仏教思想を近代中国の思想史に位置づける。

(4) 開明書店や立達学園における豊子愷の活動を再評価する。

(5) 比較文学の観点から豊子愷の日本文学翻訳を検討する。

3. 研究の方法

(1) 平成20年度の計画

①1920年から30年代までの豊子愷の小品文と漱石、ハーンとの関連を精査する。

②豊子愷の絵画・墨蹟・手稿・旧蔵書の目録作成。

(2) 平成21年度の計画

①日中戦争期の豊子愷文学と漱石文学の対比研究。

②豊子愷の絵画・墨蹟・手稿・旧蔵書の目

録作成。

(3) 平成22年度の計画

①豊子愷晩年の随筆連作『縁縁堂続筆』(1972-73)と漱石『硝子戸の中』の比較研究。

②豊子愷の絵画・墨蹟・手稿・旧蔵書の目録作成。

4. 研究成果

(1) 西槿は豊子愷の小品文を夏目漱石、小泉八雲とのかかわりから解説し、一連の論文をまとめ、単著『響きあうテクスト—豊子愷と漱石、ハーン』を刊行した。

本書は豊子愷研究としてのみでなく、漱石、ハーン研究としても高く評価されるであろう。なぜなら、豊子愷小品は、それ自体で解説されることは困難で、漱石、ハーンとの比較から効果的に分析されうるのだ。

また、本書は漱石文学の中国的受容研究として、手薄だった漱石の小品研究としても、確固たる位置を占めることになるだろう。ハーン研究にも資するところがある。

(2) 豊子愷の仏教思想に焦点をあて、研究分担者の大野が博士学位論文を提出し、学位取得後刊行したことも本研究の重要成果である。

大野は豊子愷とその師李叔同との思想的継承関係に着眼し、豊の仏教思想を深く掘り下げている。同氏は内外で豊子愷にかんする口頭発表を行い、論文を意欲的に公表してきた。

(3) 豊子愷の旧蔵書調査については、豊の旧居「縁縁堂記念館」に保管されているものを整理し、書目索引を作成した。同蔵書には豊が閲読した『漱石全集』、ハーンの著書が含まれ、実に興味深いものであった。

この書目索引は豊の文学・絵画・思想研究には不可欠な基礎資料となるであろう。

(4) 研究分担者の呉は「縁縁堂記念館」に収蔵されている豊子愷の『源氏物語』翻訳に用いられた参考書や翻訳原稿を実見し、翻訳の成立背景を検証した。彼はさらに関係者にインタビューを試みるなど、実証的なその論稿は高く評価され、日本比較文学学会創立60周年記念論集に収録された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

- ①大野公賀「豊子愷の「生活の芸術」論について」『BI(東京大学東洋文化研究所 地域連携研究プログラム「アジアの『美』の構築」Annual Report)』査読無、Vol.5、東京大学東洋文化研究所発行、2011年、45-54頁。
- ②大野公賀「1920年代および30年代上海における立達学園と開明書店」『津田塾大学紀要』査読無、第42号、2010年、307-335頁。
- ③大野公賀「豊子愷における自己確立のための模索：浙江省立第一師範から東京留学まで」『東京大学中国語中国文学研究室紀要』査読無、第12号、2009年、電子データのため頁なし。

<http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/dspace/handle/2261/28122>

- ④西槿偉「心の隔たり—豊子愷「華瞻的日記」と夏目漱石「柿」」『比較文学』査読有、第51巻、日本比較文学会、2009年、93-105頁。
- ⑤西槿偉「豊子愷の「縁縁堂蔵書」について」熊本大学文学部紀要『文学部論叢』査読無、第100号、2009年、261-271頁。

<http://reposit.lib.kumamoto-u.ac.jp/handle/2298/11340?mode=full&metadispmode=>

- ⑥西槿偉「響き合うテキスト(四) 幼時体験の光と影—豊子愷「憶児時」と夏目漱石『硝子戸の中』」国際日本文化研究センター紀要『日本研究』査読有、第39集、2009年、65-84頁。

<http://202.231.40.34/jpub/pdf/js/IN3903.pdf>

〔学会発表〕(計10件)

- ①大野公賀「豊子愷の「生活の芸術」論について」東京大学東洋文化研究所シンポジウム「アジアが見た日本美術」於東京東京大学東洋文化研究所・大会議室、2011.2.16
- ②大野公賀「民国期中国と日本の文化交流—弘一法師(李叔同)を中心に」成均館大学東アジア学院・東京大学東洋文化研究所・京都大学人文科学研究所共催学術シンポジウム「東アジアにおける『知』の流通—近代を中心に—」、於京都大学人文科学研究所・大会議室、2011.1.28
- ③大野公賀「立達学園と開明書店—民国期知識人グループの一例として—」東文研・ASNET共催セミナー、於東京東洋文化研究所・大会議室、2010.12.9
- ④西槿偉「異文化的対話—論豊子愷「縁」と夏目漱石「凱貝爾先生」」第三回弘一大師研究国際学術会議、於中国杭州市玉皇山荘、2010.10.12
- ⑤大野公賀「弘一大師と豊子愷的交流及仏教信仰—以『護生画集』为中心」第三回弘一大師研究国際学術会議、於中国杭州市玉皇山荘、2010.10.12

- ⑥西槿偉「響きあうテキスト—豊子愷漱石、ハーン」ラフカディオ・ハーン来日120年・生誕160年記念講演会・シンポジウム、於熊本大学工学部百周年記念館、2010.9.26

- ⑦西槿偉「異文化の対話—豊子愷「縁」と夏目漱石「ケーベル先生」」熊本大学・杭州師範大学学術交流シンポジウム、於放送大学熊本学習センター、2010.7.14

- ⑧西槿偉「異文化の対話—豊子愷「縁」と夏目漱石「ケーベル先生」」日本比較文学第72回全国大会、於東京工業大学大岡山キャンパス、2010.6.20

- ⑨西槿偉「幼時体験の光と影—豊子愷「憶児時」と夏目漱石『硝子戸の中』」第五回熊本大学21世紀文学部フォーラム、於放送大学熊本学習センター第一講義室、2008.12.13

- ⑩西槿偉「心の隔たり—豊子愷「華瞻的日記」と夏目漱石「柿」」日本比較文学会第70回全国大会、於大妻女子大学多摩キャンパス、2008.6.22

〔図書〕(計10件)

- ①中川成美、呉衛峰ほか『越境する言の葉 日本比較文学会創立60周年記念論集』彩流社、2011年、印刷中。

- ②西槿偉『響きあうテキスト 豊子愷と漱石、ハーン』研文出版、2011年、印刷中。

- ③坂元昌樹、西槿偉ほか『越境する漱石文学』思文閣出版、2011年、印刷中。

- ④積慧観、西槿偉、大野公賀『如月清涼—第三屆弘一大師研究国際学術会議論文集』中国廣播電視出版社、2010年、177-189、283-302頁。

- ⑤西槿偉『越境する精神と学際的思考』熊本出版文化会館、2010年、173-211頁。

- ⑥坂元昌樹、西槿偉ほか『漱石文学の水脈』思文閣出版、2010年、141-172頁。

- ⑦大野公賀『中華民国期の豊子愷 新たな市民倫理としての「生活の芸術」論』Book park 東京大学大学院人文社会系研究科博士論文ライブラリー、2009年、161頁。

- ⑧平川祐弘、牧野陽子、西槿偉ほか『講座 小泉八雲Ⅱ ハーンの文学世界』新曜社、2009年、435-460頁。

- ⑨王曉平、西槿偉ほか『東亜詩学与文化互読』中華書局、2009年、381-396頁。

- ⑩坂元昌樹、西槿偉ほか『漱石と世界文学』思文閣出版、2009年、3-32頁。

〔その他〕

- ①エッセー、西槿偉「豊子愷と漱石、ハーン」くまもとハーン通信『石仏』第18号、2011.4、32-33頁。

- ②翻訳、豊子愷著、西槿偉訳『縁縁堂隨筆』その一『文学部論叢』熊本大学文学部、第102号、2011.3.10、231-249頁。

- ③新聞記事、西槿偉「熊本大学と中国・杭州師範大学 近代文学が結ぶ「縁」」『熊本日日新聞』2010.8.21日刊。

④新聞記事、西槇偉「『漱石全集』をめぐる
日中の友情 豊子愷と内山書店 書簡発見」
『熊本日日新聞』2009. 11. 2 日刊。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西槇 偉 (NISHIMAKI ISAMU)

熊本大学・文学部・准教授

研究者番号：50305512

(2) 研究分担者

大野 公賀 (ONO KIMIKA)

東京大学・文学部・助教

研究者番号：20548672

呉 衛峰 (GO EIHO)

東北公益文科大学・公益学部・准教授

研究者番号：90458159